

白浜神社春大祭



2月2日(水)“にがっのふっか”、白浜神社で『白浜神社春大祭(春祭り)』が行われました。少し風が冷たかったですが、新型コロナウイルス感染症予防をきちんと行い開催されました。七五三・へこ祝・41厄・還暦・米寿の方々が着物・スーツ姿で、それぞれ一緒にお参りしていました。姉妹お揃いの着物だったり、へこ祝の子ども達は袴姿で揃えたりと、見に行った私まで楽しませていただきました(*´艸`)

残念だったのが、還暦の方達の餅まきがなかったことです。新型コロナウイルス感染症予防のために、今年是不行になったそうです。来年こそは新型コロナウイルス感染症も落ち着いて、いつも通り開催できることを楽しみにしています。



Instagramで
まち協をフォローしよう！



新型コロナウイルス感染予防のために

マスク着用 と 手指の消毒

忘れずにね！



崎山地区人口統計表

(令和4年1月31日 現在)

	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	10区	11区
男	74	74	46	55	58	52	76	97	97	40	41
女	87	83	61	74	67	64	86	109	94	53	51
合計	161	157	107	129	125	116	162	206	191	93	92

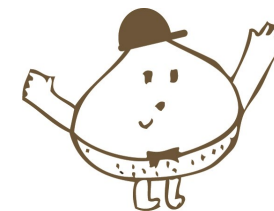
崎山地区全体 男 710名 女 829名 計 1,539名 (先月比+2名)

崎山地区まちづくり協議会 事務局 集落支援員 奥野

五島市役所 崎山出張所内 TEL 0959-73-6389

崎山地区まちづくり協議会

まち協通信 第22号



ヘトマト



1月16日(日)、下崎山にて『ヘトマト』が行われました。今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、神事のみで開催でした。朝早くから、大通寺で御幣と羽子板のお祓いをし、その羽子板を新婚さんのお宅まで届けました。羽子板はとても綺麗にできていて、その羽子板でまたまた綺麗な着物姿のお嫁さんが酒樽に乗って羽根つきをしている様子など、とても見たかったですね(>_<) その後、青年団と消防団の方達が大草履を山祇神社まで担いでいき奉納し途中、ヘトマト通りから山祇神社へ上がる曲がり道と、山祇神社の広場で胴上げをしました。(女性は乗せてませんでした(*´_ゝ`)) 大きなわら草履を思いっきり上へ上へと上げている姿は、とてもかっこよかったです!!! (個人的に乗って見たかったです(\*´▽`)) 玉せせりの“藁玉”は最後に白浜海岸に投げたそうです。

大通寺の住職さんもおっしゃっていましたが、来年こそは3年分の思いを込めて開催できることを願っています！



※白浜海岸に砂浜があった頃までは、海岸で行っていたそうです。

令和4年3月1日 発行

鬼岳火山群の溶岩台地（ジオ）に生きる “さっきゃまびと”

Vol.7
2022.3.1 発行
発行責任者
崎山地区まちづくり協議会
代表 古里 幸一
090-2393-1990

・・・「崎山経塚」「大乘妙典全部」石碑と「慧日山大通寺」と「お守りさん」・・・

“さっきゃま”は信心深い集落である。この2年間新型コロナウイルス拡大による影響で、毎年1月に行われるお寺の報恩講も中止になり仏前で住職の読経を聴くことがなかった。‘南無阿弥陀仏’“南無釈迦牟尼仏”“南無大師遍照金剛”読経の違いに何の違和感もなく、住職に合わせ唱え、合掌、自然体で受け入れてきたお経である。宗派や教祖・経典云々が解りだしたのは社会人になってからであるが、何故か読経が嫌いではなかった。きっと、“さっきゃま”びとの信心深さが自分をもそうさせているのであろう。

さて、「崎山経塚」に話をもどしていこう。

「曹洞宗大通寺」「大般若祈祷会・一字一石供養」「大般若経」「お守りさん」そして大乘妙典壹（一）字一石・大乘妙典全部と刻まれた石碑。これらは時の流れの中で係りを持ちながら‘さっきゃま’びとの生活に溶け込んでいる。ただ、残念なことは、今から350年前の寛文12壬子（みずのえね）（1672）正月、崎山村の祈願寺として曹洞宗大門寺八世棟屋天梁和尚が慧日山大通寺（えいにちざん）を創立後、平僧地から法地へ寺格を昇登させた昭和22年夏の虚庵貫道禅師を拜（拝）請傳法（はいしょうでんぼう）一世として住職が置かれるまでの古文書（文献）に出会わないことである。とはいえ、当時の南松浦郡崎山村村長代理助役 中島右馬次氏と大通寺住職 幹幹道氏と取り交わした『永久保存大通寺維持関係書類綴 昭和21年11月20日』は、史実を語る崎山地区の重要文化財といえる。



この大通寺に移した平家一門秘蔵の経文600巻を隠していたと伝えられる場所が「崎山経塚」（写真）である。この際のエピソードが現在の「お守りさん」で経典の上に置かれる梅の小枝となっている。山下利幸氏「崎山随想」“大通寺の大般若”の記述は、親しみを感じる大切な郷里の伝承である。経文600巻とは、「大般若経600巻」と考えられるが、紙に書写した紙本経（しほんきょう）が現存していると、国宝扱いになるのではないだろうか。牛に運ばせたとの伝承は、小石に経文一字を書いた一字一石の礫石経（れきせききょう）ではないことを物語っているが、ならばなぜ経塚の石碑が“大乘妙典供養碑”でなく“大乘妙典一字一石碑”なのか。経塚5基は左から建立年月が昭和31年（1956）、昭和18年（1933）、享保13戊申（つちのえさる）（1728）、判読不明、宝永7庚寅（かのえとら）（1710）と順にあるが、建立年が左側から新しく、判読不明供養碑が故意に場所変更されていないとすれば、江戸時代建立の経塚と言えるのではないだろうか。あまりにも飛躍した私見ではあるが。

滋賀県長浜市文化財保護センター発行の文化財ニュース層第199号によれば紙本経は平安時代～室町時代に多く、平安時代の経塚は、寺院や神社の境内あるいは眺めのよい丘陵や、南・東斜面に造られるのが一般的とある。室町～江戸時代の礫石経塚は集落に接する所に多く造られ、土饅頭のような低い塚の上に石塔など建てられているものが多いとある。

福江の坂の上経塚は、文禄の役（1592）出陣での多数の将兵の菩提を弔うため一字一石の礫石経を築いたと史実にあり、旧本山村 高田郷松平経塚でも一字一石を埋めたと伝わっている。そんな中、崎山経塚は“大乘妙典一字一石”供養碑であって、礫石経でない紙本経が見つかったとされているのである。



因みに現在、大通寺にあり「お守りさん」で町民の「家内安全、五穀成就・・・」を祈願する「大般若経」は沙門鐵眼募刻（しゃもんてつがんぼこく）延寶丁巳（えんぼうひのとみ）年仲夏 黄檗（おうばく）山寶蔵（ほうぞう）院識 昭和22年（1947）五世幹道とある。

現代風で言えば、「延宝5丁巳（ひのとみ）（1677）陰暦5月（皐月：さつき）に鐵（鉄）眼禅師が出家した修行僧を募って刻んだ版木の写本で、鐵眼禅師のお寺（黄檗山寶蔵院）が蔵版」となる。私見であるが、五世幹道禅師が昭和22年（1947）大門寺より拝領したものではないだろうか。

また、五世幹道和尚が作成した『永久保存 月分年分年紀行吏（事）表 大通寺 昭和22年夏』に記載されている上崎山郷大般若（御守：おもり）には、上郷当番宿から大般若経を受取りに来たら大般若経二箱（百巻）と御守用黒塗の箱二個、十六善神御像・・・を渡す。とあり、現在も続く「お守りさん」の手順が記載されている。・・・とすると、平安時代までには遡れないが、今から348年前の「大般若経（蔵版）」が使われていることに感動すべきではないだろうか。

崎山地区の歴史を知る貴重な文化財の一つある。

今一つ幕藩時代から続き、代官が置かれた崎山掛り、上村・下村の字名でいう“里村”“大里”（現在では第四町内会と第五町内会）の境界 針崎様宅石垣にある「大乘妙典全部」と刻まれた供養碑は、何を供養しているのだろうか。今でも信心深い人の手により供養が続いている。

全国に「大乘妙典一千部塔」や「大乘妙典二萬部塔」があることから推測して、大般若経600巻を読誦（どくじゅ）した先祖供養（追善供養）碑ではないかと考えている。建立者、建立年が風化で判読できない今、謂れを知る術が無く残念である。また、何故、両村の境界線にあるのかも気になる。

なお、五島編年史によると「慧日山大通寺」創立より35年前（寛文14丁丑（ひのとうし）（1637）には、崎山に[大通寺]、大應寺、徳知庵が既にあり、[大通寺]においては知行地として二石与えられている。この[大通寺]と「慧日山大通寺」とが同じ寺なのか疑問が残ることばかりである。ただ、これらは戦国・江戸時代 崎山の一つの歴史と言える。

考古学者でもなく、僧職でもなく、学識経験者でもない“さっきゃま”びとの一人であるが、これからもこのタイトルについては調べて行きたい。郷里の諸先輩方からのご教授いただければ幸いです。

信心深い“さっきゃま”びとの心が未来永劫つづきますように・・・

【参考文献】五島編年史、福江市史、崎山随想、仏教がわかるお経入門、経塚の起源、日本史年表 社会福祉法人さゆり会は、“崎山鑑瀬自然を守る会”“崎山まちづくり協議会”を応援しています。